

名称 ハクセンピ

他名等

部位等 根皮

備考 根皮は白鮮皮（ハクセンピ）と呼称される

学名（科名） *Dictamnus dasycarpus* Turcz. (Rutaceae) ミカン科

其原植物和名等 ハクセン

医薬品として使用実態があるか Yes（中国薬典収載）

毒性データ（LD50等）

dictamine, γ -fagarine: mutation in *Salmonella typhimurium* 1 μ g/plate

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

dasycarpine, 7,8-dimethoxyplatydesmine, O-ethylnorskimianine, O-ethylnordictamine, O-ethylnorfagarine

dictamine, γ -fagarine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

dasycarpol (sesquiterpene), dictamninsides A-K, M (diterpene glycosides), acetovanillone rutinoside

主要な生理活性

白鮮皮は白癬菌をはじめ種々の病原性真菌に対し、抑制作用および解熱作用が認められる。解熱、解毒、沈痛、利胆薬としてリウマチ、神経痛、黄疸、疥癬などの皮膚疾患などに応用される。

重要文献

- 1) Che, J. *et al. Chin. Chem. Lett.*, **11**, 707-708 (2000)
- 2) Zhao, W. *et al. Phytochemistry*, **47**, 7-11, 63-68 (1998)
- 3) Muyard, F. *et al. Phytochemistry*, **31**, 1087-1089 (1992)
- 4) Chang, J. *et al. Planta Med.*, **68**, 308-312 (2002)
- 5) Chang, J. *et al. J. Nat. Prod.*, **64**, 935-938 (2001)
- 6) Liu, T. P. *et al. CA.*, **106**, 30033 (1987)
- 7) Mizuta, M. *et al. Mutation Research.*, **144**, 221-225 (1985)
- 8) Kanamori, H. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, **34**, 1826-1829 (1986)
- 9) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 247

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

変異原性を有するフラノクマリナルカロイドを多量に含有しているため、安全性に十分な配慮が必要であり専ら医薬品とすることが望ましい。

名称 ハクトウオウ

他名等

部位等 葉および茎

備考 茎は白頭翁（ハクトウオウ）と呼称される

学名（科名） *Pulsatilla chinensis* (Bge.) Regel (Ranunculaceae) キンボウゲ科

其原植物和名等 ヒロハオキナグサ

医薬品として使用実態があるか Yes（中国薬典収載、使用部位：根）

消炎、止血、止瀉に、白頭翁 1 日量 10~15 g を煎じて服用する。

毒性データ（LD50 等）

同属植物 *P. alpina* subsp. *apiifolia* (scop.) Nyman, aqueous extract LD50 1.92 g/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

pulsatillosides A-C, E, pulchrenosides A-C, pulsatillic acid (triterpene glycosides), anemosapogenin

主要な生理活性

白頭翁の煎剤、サポニンには抗アメーバ原虫作用があり、生汁は試験管内で黄色ブドウ球菌、緑膿桿菌に対して抗菌作用がみられる。また全草のエキスには明らかに強心作用があり、抹消血管拡張、内臓神経支配血管の収縮がみられた。白頭翁は消炎、収れん、止血、止瀉薬として熱性の下痢、腹痛、鼻血、痔疾出血などに用いられる。

重要文献

- 1) Ye, W. *et al. J. Nat. Prod.*, **61**, 658-659 (1998)
- 2) Wu, Z. *et al. CA.*, **116**, 231902 (1992)
- 3) Ye, W. C. *et al. Chin. Chem. Lett.*, **2**, 375-376 (1991)
- 4) Ikuta, A. *et al. Phytochemistry*, **27**, 2813-2815 (1988)
- 5) Mimaki, Y. *et al. J. Nat. Prod.*, **62**, 1279-1283 (1999)
- 6) Mimaki, Y. *et al. J. Nat. Prod.*, **64**, 1226-1229 (2001)
- 7) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 101

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs p. 363 Pasque flower (*P. vulgaris*, *P. pratensis*)

評価：A

細胞毒性活性を示す成分を、多種、多量に含有しており、安全性に十分な配慮が必要であり専ら医薬品と考えられる。

名称 ハクトウスギ

他名等 ウンナンコウトウスギ

部位等 樹皮と葉

備考 心材は「非医」

学名 (科名) *Pseudotaxus chenii* (Taxodiaceae) スギ科

其原植物和名等 ハクトウスギ

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

paclitaxel: LD50 128 mg/kg (mouse ip), 12 mg/kg (mouse iv)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

paclitaxel

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

11,12-hopanediol, pseudotaxlactone (Phenolic compound), brevifoliol

主要な生理活性

重要文献

- 1) Cheng, Z. R., *et al.* *Zhongguo Yaoke Daxue Xuebao*, **25**, 259-261 (1994)
- 2) Corbett, R. E. *et al.* *J. C. S. (C)*, 955 (1971)
- 3) Zhang, J. *et al.* *Zhiwu Xuebao*, **38**, 399 (1996)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: A

paclitaxel を含有するとの報告があり、専ら医薬品と考えられる。

名称 バクモンドウ

他名等 リュウノヒゲ

部位等 根の肥大部

備考 根の肥大部は麦門冬（バクモンドウ）と呼称される

学名（科名） *Ophiopogon japonicus* Ker-Gawler (Liliaceae) ユリ科

其原植物和名等 ジャノヒゲ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

鎮咳、去痰などに麦門冬 1 日量 7-10 g に 400~500 mL の水を加え、半量になるまで煎じつめ温めて 3 回に分けて服用する。

210 処方中の配合処方：(15 処方) 温経湯、滋陰降火湯、滋陰至宝湯、炙甘草湯、辛夷清肺湯、清肺湯、清肌安蛔湯、清暑益氣湯、清上燭痛湯、清心蓮子飲、竹茹温胆湯、鉤藤散、麦門冬湯、補氣建中湯、補氣湯、清上燭痛湯、清心蓮子飲、竹茹温胆湯、鉤藤散、麦門冬湯、補氣建中湯、補肺湯

毒性データ (LD50 等) root extract: LD50 20.6 g/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

ophiopogonins A-D, oligosaccharide, homoisoflavonoide

主要な生理活性

鎮咳、去痰、緩和作用が認められ、粘滑性消炎、強壯、去痰、鎮咳薬として咳止め、去痰、滋養強壯などに用いられる。

重要文献

- 1) Shoji, J. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, **20**, 1729 (1972); **21**, 308 (1973); **25**, 3049 (1977)
- 2) Watanabe, Y. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, **31**, 3486 (1983); **32**, 3994 (1984)
- 3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 630
- 4) 210 処方生薬解説 p79

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 80

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、重要生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。

名称 ハゲキテン

他名等

部位等 根

備考 根は巴戟天（ハゲキテン）と呼称される

学名（科名） *Morinda officinalis* How. (Rubiaceae) アカネ科

其原植物和名等 モリンダ・オフィシナリス

医薬品として使用実態があるか Yes（中国薬典収載）

補腎、強壮に巴戟天 1 日量 3~10g を煎じて服用する。

毒性データ（LD50 等）

同属植物 *M. lucida* Benth, extract LD50 >500 mg/kg (rat, ip), *M. citrifolia* L., extract LD50 7500 mg/kg (mouse, ip), *M. umbellata* L., extract LD50 >1 g/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

morindolide, morofficinaloside, 1-hydroxy-2,3-dimethoxyanthraquinone,
1-hydroxy-2-hydroxymethylanthraquinone, 2-hydroxy-3-hydroxymethylanthraquinone,
1,6-dihydroxy-2,4-dimethoxyanthraquinone, 2-hydroxy-1,4-dimethoxyanthraquinone,
1,6-dihydroxy-2-methoxyanthraquinone

主要な生理活性

巴戟天のエタノールエキスは試験管内で枯草菌に対して抑制作用がみられる。強壮薬としてインポテンツ、婦人の寒冷による不妊症、リウマチ、脚気などの疼痛に用いられる。

重要文献

- 1) Yoshikawa, M. *et al. Chem. Pharm. Bull*, **43**, 1462 (1995)
- 2) Banthorpe, D. V. *et al. Phytochemistry*, **38**, 107 (1995)
- 3) Katajima, M. *et al. Phytochemistry*, **48**, 107-111 (1998)
- 4) Yang, Y. J. *et al. Yaoxue Xuebao*, **27**, 358-364 (1992)
- 5) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 498

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 77

The Complete German Commission Monographs 無記載

評価：A

アルカロイド等は含有されていないが、強い変異原性物質であるアントラキノン類を含有しており安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ハシリドコロ属

他名等 ロート根

部位等 根

備考

学名 (科名) *Scopolia japonica* Maxim (Solanaceae) ナス科

基原植物和名等 ハシリドコロ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

ロートエキスまたは硫酸アトロピンの原料となる。

毒性データ (LD50 等) エキス : LD50 1275 mg/kg (mouse, po),

atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, sc); LD50 56 mg/kg (mouse, iv)

atropine hydrochloride: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv)

(-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

scopolamine, hyoscyamine, atropine, apoatropine, scopadonnine, scopine, scopoline

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

scopolamine, hyoscyamine, atropine, apoatropine (tropan alkaloids)

主要な生理活性

ロートエキスは消化液分泌抑制、鎮痙作用があり、胃酸過多、胃痛、胃・十二指腸潰瘍などに内服され、また硬膏、軟膏、座薬などに外用される。瞳孔の散大を起こす。硫酸アトロピンは約 0.1% の溶液で瞳孔を散大させる作用があり、眼科治療には欠かせない。臭化水素酸スコポラミンは鎮静催眠剤としてモルヒネ嘔吐、船酔い、無痛分娩に使用される。

重要文献

1) 牧野和漢薬草大図鑑 p 473

その他注意すべき点

ハシリドコロは全草、特に根茎に有毒成分が多く、誤って食べると興奮、狂騒状態を引き起こし、ついに昏睡して死に至る。春先に山間地に山菜と間違えて食べ中毒を起こすケースが多い。誤食すると所きらわず走り回ることからハシリドコロの名が付いた。

Botanical Safety Handbook Class 3 (*Scopolia carniolica* Jacq.) p. 105

The Complete German Commission E Monograph p. 202 *Scopolia* root (*S. carniolica*)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含む

評価: A

劇薬相当のアルカロイド (hyoscyamine) が含有されており専ら医薬品と考えられる。

名称 ハズ

他名等

部位等 種子

備考

学名 (科名) *Croton tiglium* L. トウダイグサ科 (Euphorbiaceae)

基原植物和名等 ハズ

医薬品としての使用実態があるか No

峻下薬、吐薬として用いられていたが、現在では薬用利用されない。神農本草経の下品であり、生理作用が強烈であるので使用上細心の注意が必要である。

毒性データ (LD50 等)

Croton oil: LD₅₀ = 60 mg/kg (frog, i.p.); LD₇₀ = 3.74 mg/kg (mouse, subcutaneous) LD₅₀ はさらに低いので毒薬。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

発ガンプロモーター作用を持つホルボールエステル類を含む。

含む場合その化合物は

Phorbol and its esters: phorbol, phorbol 12-tiglate 13-decanoate, 12-tetradecanoylphorbol 13-acetate (phorbol ester A₁), phorbol ester A₂, A₃, A₄, B₁, B₂, B₃, B₄, B₅, B₆, B₇

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

fatty acids and their glycerides: crotonic acid, tiglic acid

nucleoside: crotonoside

毒性タンパク質 crotin、ricin 類似物質 croton-albumin

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p267) , 原色和漢薬図鑑 (上 p196) , Phytochemical Dictionary 2nd Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

毒薬相当の毒性があり、発ガンプロモーター作用を持つホルボールエステルを含む。

名称 ハマメリスヨウ

他名等 witch hazel

部位等 葉

備考

学名 (科名) *Hamamelis virginiana* L. (Hamamelidaceae) マンサク科

其原植物和名等 アメリカマンサク

医薬品として使用実態があるか Yes (Com E 収載)

我が国ではマンサク (*Hamamelis japonica* Sieb. Et Zucc.) が民間薬として下痢止め、皮膚炎、扁桃腺炎、口内炎に用いられている。

毒性データ (LD50等)

Leaf extract: LD50 4510mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

3-galloylprodelphinidin B2, 2',4-di-O-galloyl-D-hamamelopyranose, 2',3,5-tri-O-galloyl- α -D-hamamelofuranose, 4-hydroxybenzoyl-2',3,5-tri-O-galloyl- α -D-hamamelofuranose, 4-hydroxybenzoyl-2',3,5-tri-O-galloyl- β -D-hamamelofuranose 2',5-di-O-galloyl- β -D-hamamelofuranose (hamamelitannin), 3'-(4-hydroxybenzoyl)procyanidin B1, hamamelose

主要な生理活性

タンニンに収れん作用が認められる。

重要文献

- 1) Mayer, W. *et al.*, *Annalen*, **688**, 232 (1965)
- 2) Nonaka, G. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **32**, 483 (1984)
- 3) Hartisch, C. *et al.*, *Phytochemistry*, **42**, 191 (1996)
- 4) Makhmatkulov, A. B. *et al.*, *Chem. Nat. Compd.*, **30**, 214-222 (1994)
- 5) 日本薬草全書 p 597

その他注意すべき点

インターネット等に化粧品として多くの記載がなされている。

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 59

The Complete German Commission E Monographs p 231

評価: E

アルカロイド等の問題となる成分は含有しておらず、また BSH、Com E においても安全性に問題となるような記載がないことから食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

名称 バリエラ属

他名等 バリエラ/パレイラ根

部位等 樹皮・根

備考

学名 (科名) *Chondrodendron* spp.または *Chondodendron* spp.

基原植物和名等 原産国ブラジルではパレイラ、アブツアと呼ばれる。

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載の塩化ツボクラリンの原料

毒性データ (LD50 等) Extract of *Chondodendron limacifolium*: LD₅₀ = 2 g/kg (mouse, subcutaneous)

同属植物

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

bisbenzylisoquinoline alkaloids: (+)-tubocurarine, (+)-bebeerine, isochondrodendrine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

ブラジル産薬用植物事典 (橋本梧郎、アボック社), Phytochemical Dictionary 2nd Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

名称「バリエラ属」はほとんど用いられないので、「コンド(ロ)デンドロン属」に変更するのが適当と思われる。

属名は *Chondrodendron* spp.または *Chondodendron* spp.の両者とも広く用いられており、The International Plant Names Index (<http://www.ipni.org/index.html>)や The Dictionary of Plant Toxins で両者とも用いられているので、両方を規定するべきである。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

塩化ツボクラリンは毒薬であり、また指定医薬品である。

評価: A

毒薬であり指定医薬品である(+)-tubocurarine を含むため、使用には注意を要する。

名称 ハルマラ

他名等

部位等 種子

備考

学名 (科名) *Peganum harmala* L. ハマビシ科 (Zygophyllaceae)

基原植物和名等

医薬品としての使用実態があるか No

毒性データ (LD₅₀ 等)

Seed extract: LD₅₀ = 450 mg/kg (mouse, route unreported) Extract: LD₅₀ > 500 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

quinoline alkaloids: peganine, vasicinone, deoxypeganine, deoxyvasicinone

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか Yes

indole alkaloids: harmaline (hallucinogenic), harmine (hallucinogenic at high doses) , tetrahydroharmine (hallucinogenic)

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p714) , Phytochemical Dictionary 2nd Edition (harmaline などの幻覚作用) , Dictionary of Plant Toxins (harmaline などの幻覚作用)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

向精神薬の類似化合物であるハルマリンを含む。

名称 ハンゲ

他名等 カラスビシャク

部位等 塊茎

備考

学名 (科名) *Pinellia ternata* (Thunb.) Breit. サトイモ科 (Araceae)

基原植物和名等 カラスビシャク 生薬名 半夏

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方中に 48 処方 (温経湯、温胆湯、延年半夏湯など)

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか Yes

含有量は 0.002% と低いが、ephedrine を含む。

主要な二次代謝産物等

homogentisic acid, homogentisic acid glucoside, 3,4-dihydroxybenzaldehyde, 3,4-dihydroxybenzaldehyde diglucoside

cerebroside, choline

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p608), 原色和漢薬図鑑 (上 p46), 第 3 版生薬学 (廣川書店)

Oshio *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* **26**, 2096 (1978): ephedrine 含有量。

その他注意すべき点

生の塊茎にはシュウ酸カルシウム (劇物) が含まれており、生食すると口腔内に炎症を起こす。

Botanical Safety Handbook Class 2b (一部の資料で妊娠時の禁忌が記載されている); 2d (出血時や血液疾患のある患者には禁忌。)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

その場合の化合物情報 塩酸エフェドリンは劇薬・要指示医薬品・覚せい剤原料である。

評価: A

劇薬・要指示医薬品・覚せい剤原料である ephedrine を含む。

名称 ヒマシ油

他名等 トウゴマ/ヒマ

部位等 種子油

備考

学名 (科名) *Ricinus communis* L. トウダイグサ科 (Euphorbiaceae)

基原植物和名等 ヒマ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

毒性データ (LD50 等)

Reproductive data of seed extract: TDLo = 400 mg/kg (rabbit, intramuscular) Extract: LD₅₀ = 3g/kg (mouse, oral); LD₅₀ = 340 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

毒性タンパク質 : ricin (LDLo = 0.3 mg/kg (man, oral); LD₅₀ = 2 µg/kg (mouse, i.p.))

ピペリジンアルカロイド : ricinine (LD₅₀ = 25 mg/kg (mouse, subcutaneous))

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

酸 : ricinoleic acid, other common fatty acids, 9,10-dihydroxystearic acid, glyoxylic acid, pimelic acid, sebaic acid

グリセリド : glycerides of ricinoleic acid and stearic acid, glycerides of 9,10-dihydroxystearic acid

タンパク質 : lipase, globulin, nucleoalbumin, glucoprotein,

ジテルペノイド : casbene

ガロタンニン : corilagin

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p276) , 原色和漢薬図鑑 (上 p306) , Phytochemical Dictionary 2nd Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2b; 2d (腸閉塞、原因不明の腹痛に禁忌。8-10 日以内の短期投与にすべきである。) 標準的な投与量は大人が 5~20 ml で 60 ml を超えない。子供が 4~12 ml

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

原料の種子には毒薬相当のタンパク質 ricin と同じく毒薬相当のアルカロイド ricinine が含まれ、ヒマシ油への混入の可能性がある。

名称 ビャクシ

他名等 ヨロイグサ

部位等 根

備考

学名 (科名) *Angelica dahurica* Benth. et Hook. セリ科 (Umbelliferae)

基原植物和名等 ヨロイグサ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方中に 8 処方 (藿香正気散、荊芥連翹湯、五積散など)

毒性データ (LD₅₀ 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

furocoumarins 0.1~0.2%: byakangelicol, imperatorin(LD₅₀ = 330 mg/kg (mouse, i.p.)), byakangelicin, bergapten (LD₅₀ = 8.1 g/kg (mouse, oral)), isopimpinellin, oxypeucedanin, phellopterin, neobyakangelicol

主要な生理活性

重要文献

原色和漢薬図鑑 (上 p52) , Phytochemical Dictionary 2nd Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: B

局方に収載される重要な生薬である。

名称 ビャクジュツ

他名等 オオバナオケラ/オケラ

部位等 根茎

備考

学名 (科名) ① *Atractylodes ovata* DC. (= *A. macrocephala* Koidz.) ② *A. japonica* Koidz. ex Kitam. キク科
(Compositae)

基原植物和名等 ①オオバナオケラ ②オケラ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方に朮として配合されているもの 57 処方 (桂枝加朮附湯など)、白朮として配合されているもの 4 処方 (胃風湯など) 蒼朮・白朮の両方が配合されている処方 3 処方 (胃苓湯など)

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sesquiterpenes: atractylon, 3 β -acetoxyatractylon, 3 β -hydroxyatractylon, atractylenolide I, II, III, eudesmol, hinesol, elemol, eudesma-4(14),7(11)-dien-8-one

ポリアセチレン化合物 atractylodine (少量)

以上の化合物は毒性データなし。

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p540, 541) , 原色和漢薬図鑑 (上 p48)

その他注意すべき点

ソウジュツ (*A. lancea* De Candolle または *A. chinensis* Kiudzyimi) との区別。

atractylone はビャクジュツに多く存在するが、絶対ではない。

Botanical Safety Handbook Class 1 (*A. macrocephala* Koidz.)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: B

局方に収載されており、多数の漢方処方に使用されるなどわが国では非常に重要な生薬である。

名称 バックダン

他名等

部位等 心材・油

備考

学名 (科名) *Santalum album* L. バックダン科 (Santalaceae)

基原植物和名等 バックダン、サンダルウッド

医薬品としての使用実態があるか Yes Com E

Com E によれば抗菌薬または鎮痙薬として煎剤の形で下部尿路感染症に補助的に処方する。油は腸溶性製剤としても用いる。

毒性データ (LD50 等) Sandalwood oils: LD₅₀ = 5580 mg/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sesquiterpenes: α - and β -santalol, α - and β -santalene, acetylsantalol

terpenoids: santene, telesantalol, telesantallic acid, santallic acid, santenone, santenonalcohol

色素: santalin A, B, desoxysantalin

hydrocarbon: hentriacontan-16-one

いずれも毒性データなし。

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p30), 原色和漢薬図鑑 (上 p180), Phytochemical Dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2d (腎臓の柔組織に関する疾病では禁忌。医師に相談せずに6週間以上服用すべきではない) (Com E の転載)

The Complete German Commission E Monographs 副作用として吐き気が知られている。また、皮膚のかゆみを引き起こす場合がある。腎臓の柔組織に関する疾病では禁忌。医師に相談せずに6週間以上服用すべきではない。

評価: A

副作用としての吐き気や腎臓の疾病に対する禁忌が知られているため、使用には注意が必要である。

名称 ビャクブ

他名等

部位等 肥大根

備考

学名 (科名) ①*Stemona japonica* (Blme) Miq.②*S. tuberosa* Lour.③*S. sessilifolia* (Miq.) Miq. ビャクブ科
(Stemonaceae)

基原植物和名等 生薬名ビャクブ(百部)には3種の植物が含まれる。①ツルビャクブ(ビャクブ)②タ
マビャクブ③タチビャクブ

医薬品としての使用実態があるか No

かつては鎮咳、殺虫薬として、肺結核や百日咳などに応用され、またカイチュウ、ギョウチュウの駆虫
薬としても応用され、また皮膚の疥癬、虱にも外用されたが、現在わが国では流通していないと思われ
る。

毒性データ (LD50 等) Crude extract of *S. japonica*: TDLo = 20g/kg (mouse, subcutaneous)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Stemona alkaloids

S. japonica: stemonine, stemonidine, isostemonidine, protostemonine, stenine, tuberosstemonine, hodorine,
sessilistemonine

S. sessilifolia: stemonine, stemonidine, tuberosstemonie, hodorine, sessilistemonine

S. tuberosa: stemonine, tuberosstemonine, isotuberosstemonine, hypotuberosstemonine, oxotuberosstemonine,
stemine, stenine

いずれも RTECS に毒性データなし。tuberosstemonine は一部の寄生虫に運動障害を起こす。
stemonine はカイコに対する殺虫効果がある。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p612, 613), 原色和漢薬図鑑 (上 p75)

Pilli and Ferreira de Oliveira, *Nat. Prod. Rep.* 17, 117-127 (2000): *Stemona* alkaloids

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: A

ステモナルカロイドが含まれており、殺虫薬として用いられるものであるため、安全性に十分な配慮
が必要である。

名称 ヒュウガトウキ

他名等

部位等 根

備考

学名 (科名) *Angelica furcijuga* Kitagawa (北川政夫、植物研究雑誌 第46巻第9号286ページ、昭和46年9月) 宮崎県、熊本県に分布するセリ科シシウド属の多年草。(Umbelliferae, セリ科)

其原植物和名等 本種は、当帰の基原種であるトウキ *Angelica acutiloba* (Sieb. et Zucc.) Kitagawa とは同属植物であるが別種。分類学的にはトウキよりカワゼンコ *Angelica tenuisecta* (Makino) Makino に近縁とされている。(日本の野生植物) Flora of Japan (講談社 1999年) ではカワゼンコの変種扱い。

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

coumarins [hyuganins A, anomalin, pteryxin, isopteryxin, isoeopoxypteryxin, praerosides II and IV, apiosylskimmin, (R)-peucedanol 7-O- β -D-glucopyranoside],

acetylenic compds (BPB, (2000), 48(10), 1429-1435 京都薬科 吉川先生

主要な生理活性

特許公報に Nomura K. K., Japan からの報告 5件 antitumor agent isoeopoxybuterixin for treatment of hepatitis and cancer

Hepatoprotective and nitric oxide production inhibitory activities : *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* (1998), 8(16), 2191-2196 京都薬科 吉川先生

重要文献

その他注意すべき点 同じ系統に属するカワゼンコの類(カワゼンコ、クマノダケ、ツクシトウキ)の食薬区分をどうするか。既に非医扱いの通知が出ている(薬食発0331009号平成16年3月31日)

インターネットによるとガン・糖尿病・C型肝炎・高血圧に効く。山原糸二。人体の老化を抑制。発毛効果や白髪を黒くする作用が注目を集めている。幻の生薬!「神の草」と呼ばれる!日本山人参 不老長寿の秘薬。

評価 : D

様々な薬理作用が報告されている一方、安全性に関する情報が不足している。

名称 ヒヨス属

他名等 ヒヨス 英名 henbane, henbell hogbean

部位等 種子・葉

備考

学名 (科名) ヒヨス *Hyoscyamus niger* L. (Solanaceae) ナス科

H. aagrestis (シナヒヨス), *H. muticus* (西パキスタン〜エジプト), *H. albus* (地中海地方) (Solanaceae, ナス科)

其原植物和名等 生薬名 天仙子 シナヒヨスの種子 (var. *chinensis* Makino)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E Henbane leafで収載p146

毒性データ (LD50 等) RTECS

(+)-hyocyanine i.v. mouse LD50 81 mg/kg; atropine reproductive effect: oral rat TDL0 437.5mg/kg; iv woman 26-39W preg TDL0 0.02mg/kg 毒性 oral human TDL0 0.033mg/kg.

scopolamine ラット経口 LD₅₀: 2650mg/kg, マウス経口 LD₅₀: 1275mg/kg, マウス腹腔 LD₅₀: 400mg/kg
マウス皮下 LD₅₀: 1700mg/kg, マウス静注 LD₅₀: 100mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Apoatropine/Hyoscine/Hyoscyamine (Tropane alkaloid)

総アルカロイド0.07% (奥田 天然薬物事典)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

チンキを鎮痛、鎮痙、副交感神経抑制薬として用いる

瞳孔散大、parasympatholytic (副交感神経遮断薬), anticholinergic (副交感神経遮断薬=抗コリン作用)

重要文献

その他注意すべき点

植物種により含量比が異なる、薬局方は硫酸アトロピンで規定、毒薬、指定

Botanical Safety Handbook なし

評価: A

劇薬相当のアルカロイドを含む。

名称 フクジュソウ

他名等 ガンジツソウ・マンサク 英名 Amur Adonis (*A. vernalis* L.)

部位等 全草

備考

学名 (科名) *Adonis amrensis* Regel et Radde (Ranunculaceae, キンポウゲ科)

其原植物和名等 和名フクジュソウ 日本には、フクジュソウ属はフクジュソウ 1 種しかない; *A. vernalis* (セイヨウフクジュイソウ)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E Pheasant's Eye herb, Adonis herba

毒性データ (LD50 等) RTECS

A. vernalis leaf extract i.v. guinea pig LD50 6.201mg/kg, oral cat LD0 32.5 mg/kg

A. aurarius infusion human oral, TDL0 4.95 mL/kg

cat LD100 k-strophanthin 0.1606mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

強心配糖体を含む

Adonitoxin, LD₅₀ (Katz): 0.19 mg/kg (i.v.), cymarol, LD₅₀ (Maus): 0.1 mg/kg (i.v.)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cymarol, cymarol, corchoroside A, convallatoxin, K-strophanthin, Adonilide, fukujustonorone, Adonitoxin (強心配糖体 Cardenolide)

lineolone, isolineolone, adonilide, fukujustone, fukujustonorone, 12-O-nicotinoylisolineolone,

12-O-benzoylisolineolone, umbeliferone, scopoletin

主要な生理活性

ComE: Positively inotropic; animal experiments showed a tonic effect on the veins.

強心利尿薬

重要文献

www.giftpflanzen.com/adonis_vernalis.html (毒性データ)

その他注意すべき点

BSH 記載なし

評価: A

毒薬相当の強心配糖体を含む。

名称 ブクシンボク

他名等 茯神木

部位等 菌核に含まれる根

備考

学名(科名) 生薬名 茯神木: 茯神中に含まれた松の根。茯神: 不完全菌類ブクリヨウ {*Poria cocos* (Fr.) Wolf (Polyporaceae, サルノコシカケ科)} の松根中に増生して、未だ同化の完成しないもの。(赤松和漢薬) マツホド(松の根に寄生)が寄生した松の根が正しい。菌核と一緒に刻んだものは茯神(芯)という。

医薬品として使用実態があるか No 中薬大辞典・下冊 1600頁 項目番号3317 には掲載
難波和漢薬に、「茯苓の中に松の根が通ったものを茯神と称し、後世一般に心病を治すには必ず茯神を用うとしているが、その根拠は虚弱である」との記述あり。

毒性データ(LD50等) 不詳

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

不詳

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか

不詳

主要な二次代謝産物等

不詳

主要な生理活性

当然茯苓とは異なる。肝を平らかにして、神を安らげる。脚気転筋を治す(中薬大辞典)。心を寧んで精神を安らげる(中薬誌)。

強心利尿薬

重要文献

その他注意すべき点

医薬品の範囲基準ガイドブックの学名はブクリヨウのもので間違い

BSH 記載なし

評価: D

成分情報がない。